

## 田んぼ(田圃)の虫たち(その1)

前は、「呑川水系」の「ホタル」のレポートで、「洗足池」の田んぼの報告をしました。今回は「田圃調布せせらぎ公園」で「おおたく環境探検隊」がおこなう「みんなの田んぼ」の様子をお伝えしましょう。

この湧水のうち、第1水源は涸れることが多く、夏の盛りを前にして出なくなり、みんなで持ち回って「田んぼ」の水の注水を行っています。今年の私は、「田んぼ」の行事に参加出来ないことが多く、せめて注水当番の時、生きものたちの様子をていねいに撮影することにしています。



田んぼへの注水は、そばに水道栓があるため、ホースで給水します。当分の間、晴天が予想されるため、2時間たっぷり注水を行いました。

日射しの強さと暑さを忘れるには、なにかに夢中になるのが一番です。そこで「田んぼにやってくる虫たち」を探すことにしました。



田んぼのロープで、自分のテリトリーの見張り番をする「オオシオカラトンボ」です。いつも見慣れているトンボですが、日陰ということもあるのでしょう、とても濃い青色をしていて、印象的でした。



真横から見た「オオシオカラトンボ」のオスの勇姿です。トンボの中でも、とても美しい部類に入ると思います。そこで、慎重にゆっくり近づいて見ることにしました。



顔の後ろの「胸部」は、全体が筋肉もりもりで、たくましい姿です。この筋肉で「羽根」を高速で羽ばたかせ、目にも止まらぬ速いスピードで飛行するのです。

さて、やはり昆虫はその「面がまえ」を見たくくなります。



真っ正面から捕らえたかったのですが、逃げられてしまい、斜めからになりました。しかも三脚を持ってこなかったのが、正確なピント合わせが難しく、いまいち顔面がシャキッと写っていません。

トンボの特徴である「複眼」は、1万とも2万もあるとも言われる目の集合体で、「オオシオカラトンボ」のそれはとりわけ大きく、左右の「複眼」はくっついています。ほぼ360度をカバーする視野で、飛びながらエサとなる虫を捕まえるなどその「動体視力」を支えています。

「複眼」と同時に「単眼」もあり、逆三角の形で3点配置されていますが、写真のピントが甘く、きちんと見えません。

これは次の撮影課題になりました。この「単眼」は、モノの形をハッキリ捕らえる事は出来ないようですが、「明暗」を捕らえ、飛行中に空の部分か地上の部分かを区別をする程度だそうです。

「複眼」にせよ、「単眼」にせよ、一日中、日射しにさらされているため茶色のサングラスをかけて、目を保護しています。

短い「触覚」が見えていますが、他の昆虫のように役に立っていないと言います。

目立つのは、しっかりした「下あご」や「くちびる」です。これでハチなどの昆虫をムシャムシャ食べるのです。今回は、エサを食べる様子は捕らえられませんでした。

さて「オオシオカラトンボ」の「オス」を見ると、「メス」も探したくなります。「トンボ」を探すとすると、どうしても空中に目を泳がせたり、樹木を見渡したくなります。しかし、しばらく探してもなかなか見つかりません。



そこでやむなく、草っ原の地面をていねいに探します。  
すると、ようやく「オオシオカラトンボ」の「メス」らしい姿に出会いました。



追っても追っても逃げてしまい、なかなか近づけなかったのですが、なんとか撮影できるまで近寄ると、「オオシオカラトンボ」の「メス」でなく、「シオカラトンボ」の「メス」、つまり「麦わらトンボ」でした。羽根は透けていますが、むしろハッキリ見えるのは、葉の上に写っている「羽根の影」です。

さて、あらためて「田んぼ」の虫たちを探索します。



密集した稲の葉の中で、小さいながらも目立つ虫が止まっていました。  
「アブ」のようです。

「アブ」に刺されてはたまりません。

「ハチ」は脅かさなければ滅多に刺されませんが、「アブ」は近くに、刺す動物や虫たちがいなければ、何もしなくても「人」を刺すと言います。どうすべきか迷いましたが、おそろおそろ近寄ることにしました。



これは「シオヤアブ」のようです。  
田んぼなど湿地に卵を産むと言いますから、こういう環境では当然いるのでしょう。

「アブ」は、実際には「刺す」のでなく「咬む」そうです。

ハチのような針があるのかどうか、ぐっと接近して確認したかったのですが、そこまで近寄って撮影する勇気はありませんでした。

「アブ」に関しては「アブハチとらず」という言葉があります。「アブ」も「ハチ」も人を刺すので、両方とも捕まえようと試みても、結局はどちらも捕らえられない・・・という意味です。  
ですので、私もこのアブが「シオヤアブ」と判っただけにとどめ、「刺す」針があるのか、それとも「咬む」頑丈なアゴがあるのかまでの確認はしないことにしました。

そこで、「アブ」から目を外し、周りを見ると・・・



「カマキリ」が、いま見た「アブ」を捕まえようとかなりの速さで近づいています。左右の前足を次々に突き出し、いかにも獲物に向かって突き進む動きです。

茶色い色をしているとすぐ「コカマキリ」かと思ってしまう。  
でも足にある黒と赤の特徴的な模様は、ハッキリ判りません。  
ひょっとすると「オオカマキリ」かもしれませんが、確定できません。  
図鑑などでは「コカマキリ」は、ほとんど茶色だけですが、  
2年前の「おおたく環境探検隊」の行事では、なんと「緑色」の  
「コカマキリ」が見つかっていますので、外見だけで決めつけるのは  
難しいようです。

<http://www.geocities.jp/ootakutanken/220912.html>

さて「アブ」を追いかけた結果はどうだったでしょう・・・



このカマキリが近づいてくる振動が伝わったのでしょうか、アブは飛んで逃げてしまいました。「コカマキリ」は稲の葉の先まで行って止まり、なんとも残念な様子です。生きものたちの動きの現場にいますと、虫たちの気持ちがピンピンと伝わってきます。

密集した稲の中で、葉と同じ緑色の昆虫も多く、とりわけ小さいサイズだと、私にはなかなか見つけられないでいます。



これは、稲の葉が切られたり、かじられていた場所に居たので、「クサキリ」かなと思いました。10mm くらいの稲の葉の幅と、どっこの小ささです。



やっと、見やすい位置に動いてくれました。  
「クサキリ」と思いましたが「ツユムシ」のようです。  
「キリギリス」の仲間は沢山いるので、その同定はどうも苦手です。

稲の中にある昆虫の見つけにくい理由には、葉と同じ「緑色」だったり、小さい  
というだけで無く、彼らが「隠れる」行動をする事もあるからです。



この写真のどこに虫がいるか判るでしょうか？  
これは「イナゴ」(コバネイナゴ)ですが、葉が密集している場所に居ると葉と同色で、なかなか見つけられま  
せん。



そして「コバネイナゴ」は、敵をよく見ている、自分が見つからないようちゃんと隠れるのです。これは細い稲の「茎」に隠れているので、身体の一部が見えていますが、稲の「葉」の後ろに隠れると、身体全体が隠れてしまいます。なんとか、イナゴの全体が見える撮影をしたくなりますが、「かくれんぼ」をするこんなイナゴの生態を写す方が好きです。人間の方をちょっとのぞき見しているようで、なんともユーモラスです。



でも、横に回ってなんとか身体全体を撮影しました。しかし葉が密集しているので、茎と茎の間からなんとか見える程度で、ちょっと撮影位置がずれると、葉や茎に隠れてしまいます。



そして、「オオシオカラトンボ」のように、なんとか「顔面」を捕らえたいと粘っていましたが、ピョンと跳んでカメラレンズの前に飛び出してくれました。こちらもあわててシャッターを切りましたが、「これは、ヤバイ」と思ったイナゴ君、すぐに飛んで逃げてしまいました。それでも私にとっては、正面顔の、貴重な1枚となりました。



さて飛んでいったイナゴ君、どこへ行ったかと探しましたが、こんな所に隠れていました。こんどはやっと、「コバネイナゴ」の身体全体を写すことができました。

ところで「イナゴ」とは「稲子」と書きます。「稲の子」という意味だそうです。「トンボ」は「田んぼ」がなまったとか・・・

田んぼを象徴する代表的な生きものが2つ、「トンボ」と「イナゴ」が揃ったところで、残りの虫たちの紹介を次回にしたいと思います。

実はある方から連絡があり、1通のメールサイズが1MBを超えると「容量サイズエラー」で受け取れないとのこと、プロバイダーの制限のようです。そこで、20枚を超える写真がある場合には、2回に分けることにしました。

---

#### (当面の日程)

2012/8/27(月)「おおた商い観光展」準備打ち合わせ 大田観光協会

2012/8/29(水) 雪小ワクワク教室 呑川学習&ウォーク

2012/8/30(木) 呑川散策ガイド作成委員会(mics 大田)9:30

2012/9/2(日)「僕らは昆虫調査隊」(おおたく環境探検隊)10:00

2012/9/5(水) エコフェスタ準備打ち合わせ 15:30 池上小学校

2012/9/6(木) 呑川ネット・定例会 10:00 生活センター講座室

2012/9/13(木) 呑川散策ガイド作成委員会(場所未定・毎月第2木曜)

\*連続5回の「呑川講座」が予定されています。

(9/27 木)「呑川の概要・六郷用水との関わり」「呑川の歴史」

(10/6 土)「呑川ウォーク(上流部)」緑が丘から稲荷橋(池上)まで

(10/11 木)「呑川の水・水循環」「呑川の生きもの」

(10/20 土)「呑川ウォーク(下流部)」稲荷橋(池上)から河口まで

(10/25 木)「川と街づくり」(仮題)首都大学東京 菊地俊夫教授

木曜日は 19:00 - 21:00 会場 大田消費者生活センター 2階講座室

土曜日は 9:30 現地集合で呑川ウォーキング(解散 12:00頃予定)

主催:パルシステム東京 共催:呑川ネット 参加費(保険料・資料代)500円

申込先:(メール)[hishinuma@m9.dion.ne.jp](mailto:hishinuma@m9.dion.ne.jp) 住所・氏名・年齢・TEL等明記

どうぞご参加ください。

---

photo essay by

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) [mitsuo.takahashi@nifty.com](mailto:mitsuo.takahashi@nifty.com)

---